

【河川事業（市町村事業） 再評価審議資料】

（岐阜県事業評価監視委員会運営要領第6に基づく審議）

- 再評価対象箇所一覧表 . . . p 1

- 平成28年度 再評価実施箇所
 - 都市基盤河川改修事業 . . . p 2
 - 4) 一級河川「正木川」(岐阜市) . . . p 3～15

平成28年度 再評価対象箇所一覧表 9月2日審議箇所
 [岐阜市]

番号	事業名	路線・河川名	市町村名	採択年度	完了 予定 年度	事業概要			全体事業費 (百万円)			実施済み額 (百万円)			進捗率 (%)			経過年数 (H28.3現在)	政策との 位置付け	関連事業の 進捗状況	社会経済情勢 等の変化及び 地元の意向	環境との調和へ の配慮事項	事業費縮減	費用対効果 分析	対応方針 (案)	特記 事項				
						全体 事業量	実施済 事業量	事業 実施率	用地補償費			用地補償費			用地補償費															
									工事費等			工事費等			工事費等															
4	都市基盤河川改修事業	一級河川 正木川	岐阜市	H5	H33	0.8km	0.714km	89.3%	2,350	2,105	89.6%	23	新五流域総合治水対策プラン ・伊自良川圏域河川整備計画	—	・土地区画整理事業の実施 ・事業継続・早期完了を希望	みお筋の確保や植生緑化の実施	橋梁をボックスカルバートに変更	3.0 (5.0)	継続											

費用対効果分析:()は前回再評価時の投資効果率

平成28年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

岐阜市

○事業制度について	事業名	都市基盤河川改修事業	
	事業目的	一級河川において、一定の計画に基づき施行される改良工事	
	採択基準	一級河川において、その施行の場所より上流の流域面積が概ね30km ² を超えない改良工事又は周辺の地域における市街地の整備と関連して施行する必要がある改良工事。	
	概要 (メニュー)	・築堤工、掘削工、護岸工等	
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 《B》	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋資産 床面積に家屋1㎡当たり評価額を乗じ家屋資産額を算定 ・家庭用品資産 世帯数に1世帯当たり家庭用品評価額を乗じ、家庭用品資産額を算定 ・事業所資産（償却・在庫資産） 産業分類ごとに、従業者数に1人当たり償却資産及び在庫資産評価額を乗じ、事業所償却・在庫資産を算定 ・農漁家資産（償却・在庫資産） 農漁家世帯数に1戸当たりの償却資産評価額及び在庫資産評価額を乗じ、農漁家償却資産額及び在庫資産額を算定 ・農作物資産（水田・畑） 水田面積、畑面積に平年収量及び農作物価格を乗じ農作物資産額を算定 ・公共土木施設 一般資産被害額に施設等に応じた比率を乗じ、公共土木施設等の被害額を算定
		その他項目	
	費用 《C》 の算定	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費と維持管理費の総費用 ・事業費とは、工事費、用地費、補償費、附帯工事費等 ・維持管理費は、毎年定常的に支出される除草等の費用 ・評価対象期間は、施設完成後から50年間 ・社会的割引率4%で現在価値化して評価 	
費用便益比の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比が1.0以上 		

平成28年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔 岐阜市 河川課 〕

番 号	4	事業名 (路線・河川名等)	都市基盤河川改修事業 (一級河川 正木川)
事業実施箇所	岐阜市		事業主体 岐阜市
採択年度	平成5年度	完了予定年度	平成33年度
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年が経過した時点で継続中の事業		
事業目的	<p>正木川では、昭和51年に大規模な浸水被害が発生し、平成9年にも浸水被害が発生している。今後は河道拡幅や橋梁架替等を実施し、流下能力を向上させ、浸水被害の解消を図る。</p>		
事業概要	<p>全体延長 L=0.8km 【護岸工、河床掘削、橋梁工】</p>		
概要図			
	<p>①未改修区間 (0.84km 付近)</p>	<p>S51.9 豪雨 浸水状況</p>	

再評価

都市基盤河川改修事業 正木川



岐阜市 基盤整備部 河川課

河川改修事業の政策と位置づけ

岐阜市が策定する岐阜市総合計画「ぎふ躍動プラン21」の整備計画に整合した改修を進めています。

◆岐阜市総合計画 「ぎふ躍動プラン21」

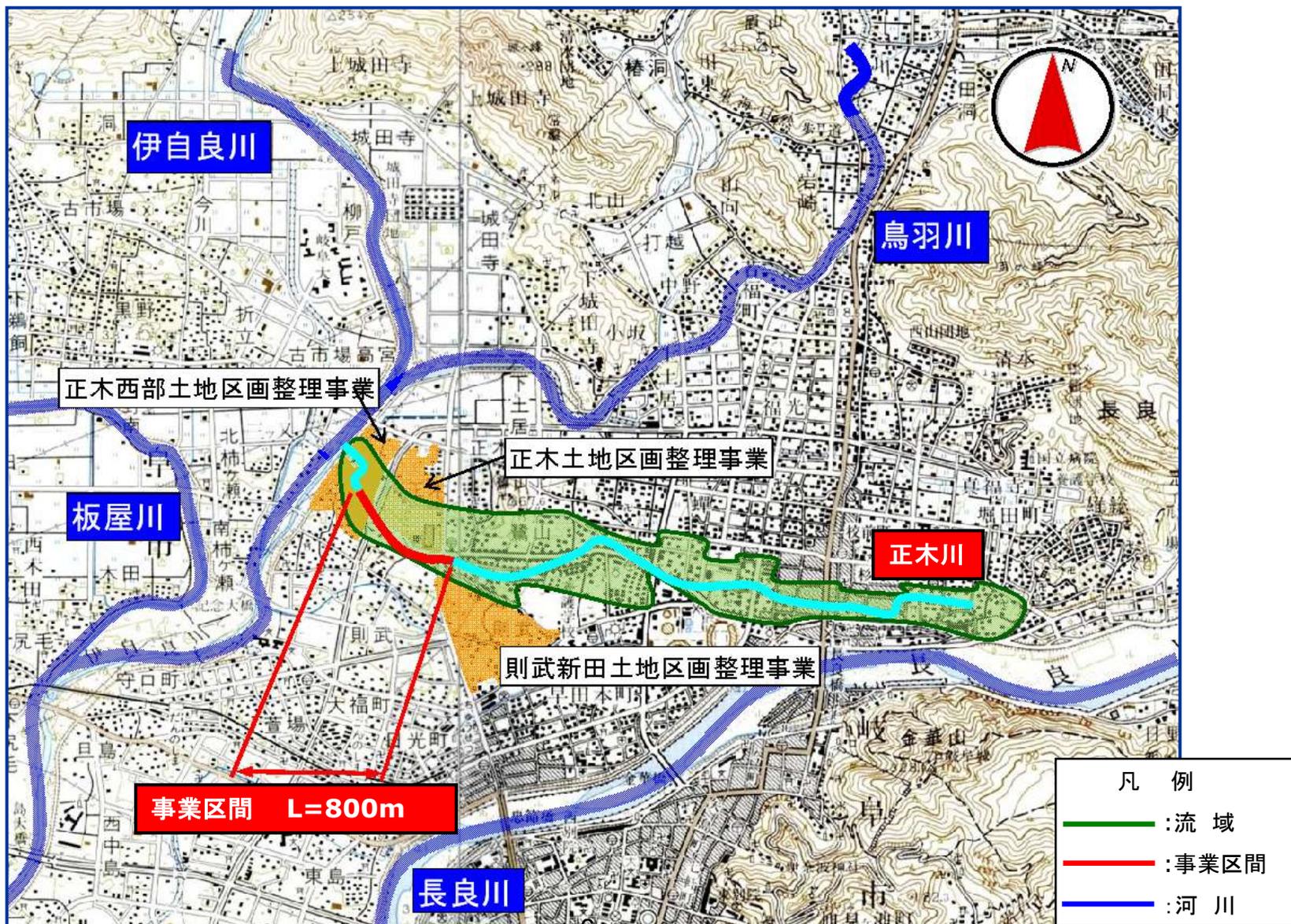
＜心安らかに暮らそう計画＞

●総合防災対策の充実強化

・農地や川沿いの低地などの宅地化により、河川流域の保水能力が低下していることから、河川改修や流域治水対策、被害軽減対策を総合的に推進することで水害対策の強化を図ります。



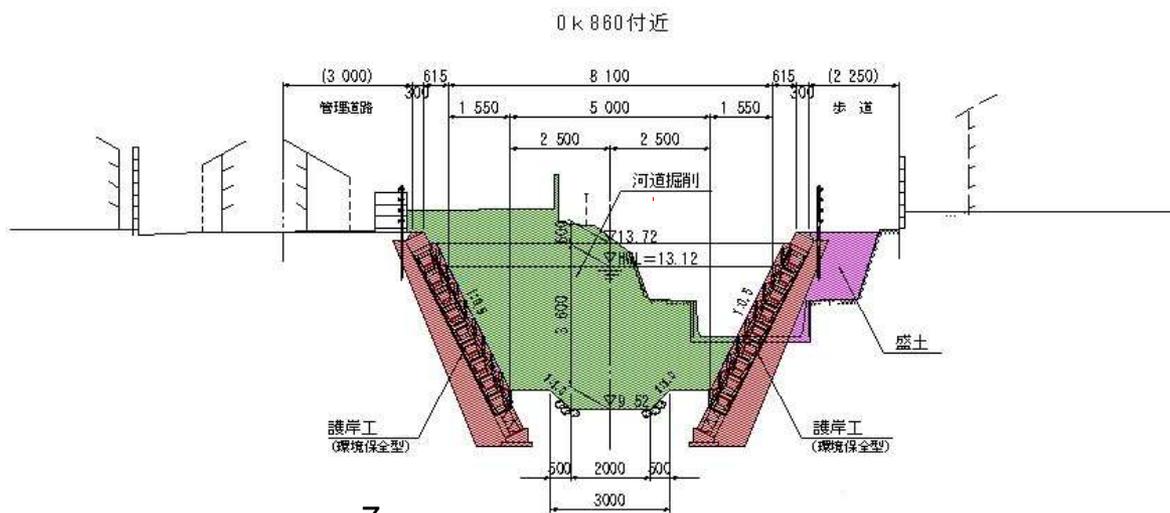
位置図



事業概要

- 事業箇所 : 岐阜市正木 外
- 流域面積 : 1.52 km²
- 全体延長 : 0.8 km
- 総事業費 : 約23.5億円
- 事業期間 : H5年度 ~ H33年度
- 計画規模 : 1/30 年
- 計画流量 : 30 m³/s
- 事業内容 : 河床掘削、護岸工、橋梁架替等

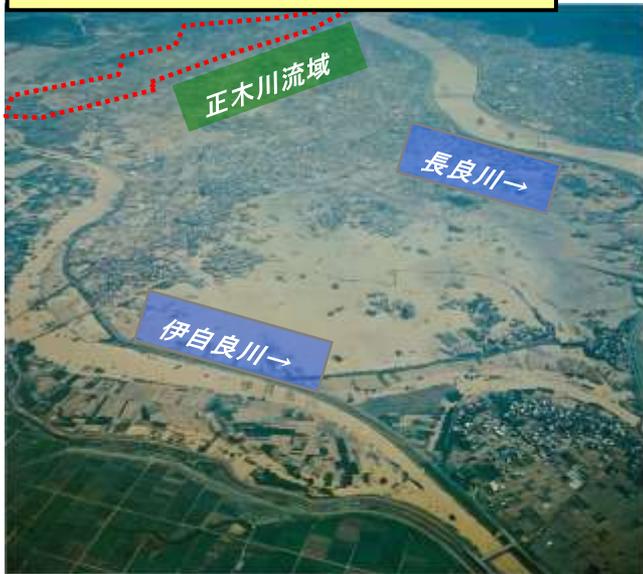
正木川改修計画横断図
(0k860付近)



事業の必要性

- 昭和51年9月洪水では、流域全域で浸水被害が発生。
- 平成9年7月洪水でも、計17戸の浸水被害が発生。

昭和51年9月洪水 浸水状況

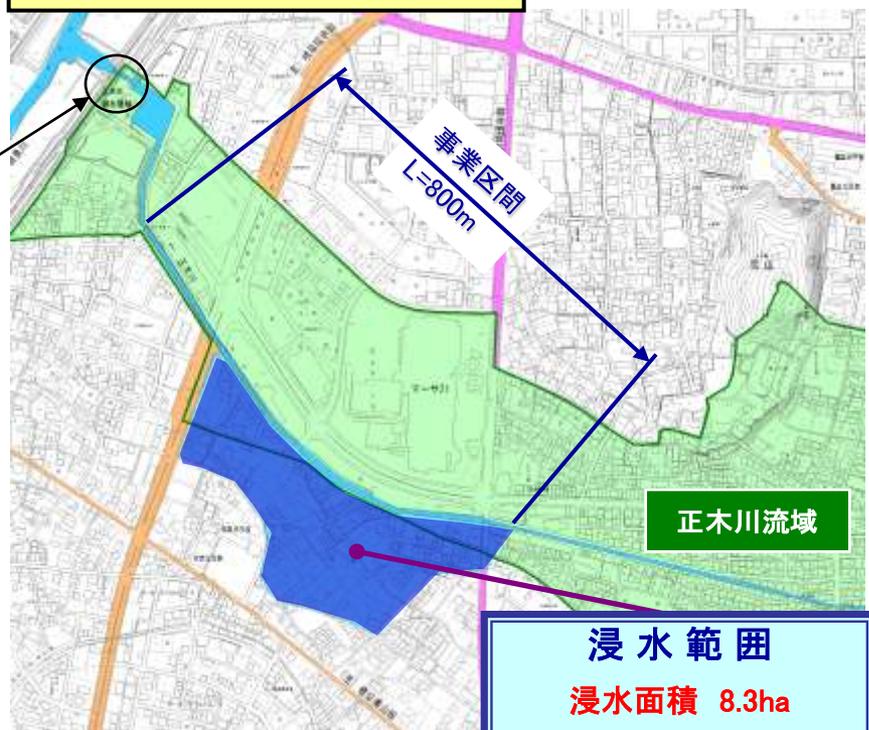


浸水範囲

昭和51年9月洪水では
流域全域で浸水被害発生

平成9年7月洪水 浸水状況

正木川排水機場
(昭和55年完成)



浸水範囲

浸水面積 8.3ha

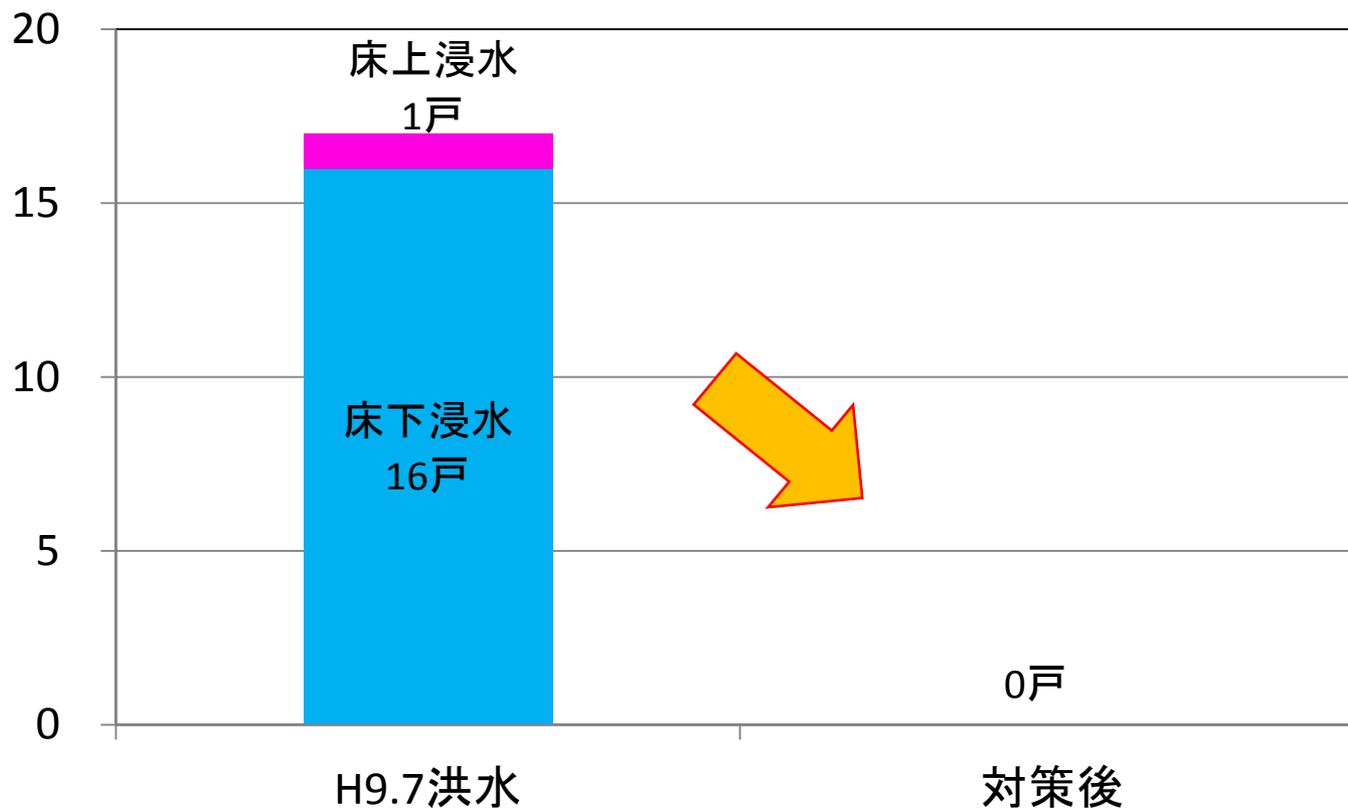
床上浸水 1戸

床下浸水 16戸

最大時間雨量 50.5mm

事業の効果

- 平成9年7月洪水の浸水被害(床上1戸、床下16戸)を解消する。
- 1/30規模の出水により想定される、浸水被害約300戸を解消する。



費用対効果分析

■事業の効果

被害防止便益 効果全体の100%

■投資的效果率

$$\frac{\text{総便益(B)}}{\text{総費用(C)}} = 3.0$$

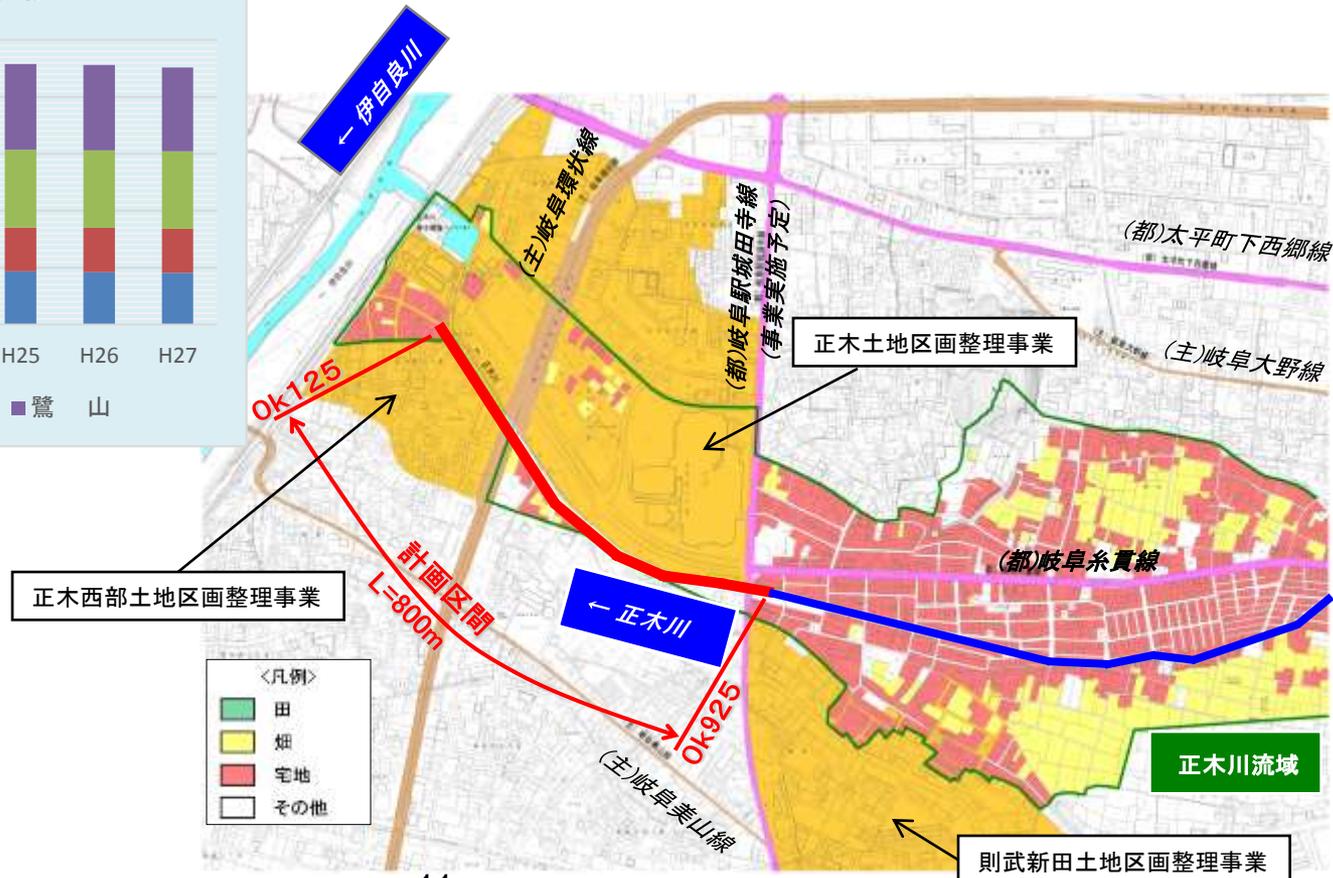
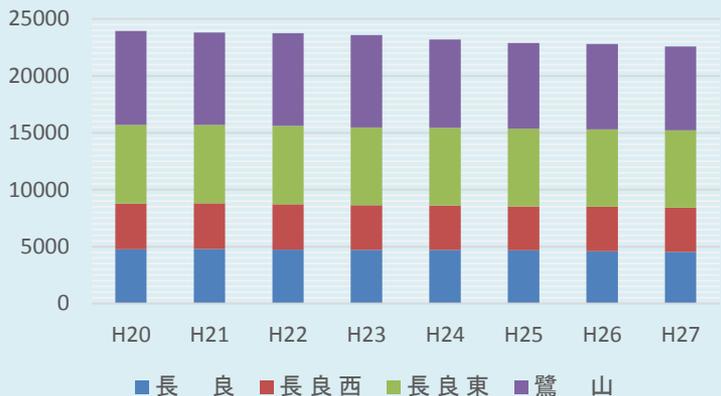
前回再評価(H23) = 5.0

※ 治水経済調査マニュアル(案) (H17.4国土交通省)に基づき算出

事業を巡る社会経済情勢等の変化

■正木川流域は、都市近郊の住宅地であり、土地区画整理事業による再開発・都市計画道路の整備に伴う人口増加が見込まれる。

正木川流域の人口推移



事業の進捗状況

進捗状況（平成27年度末）
全体進捗率 90%

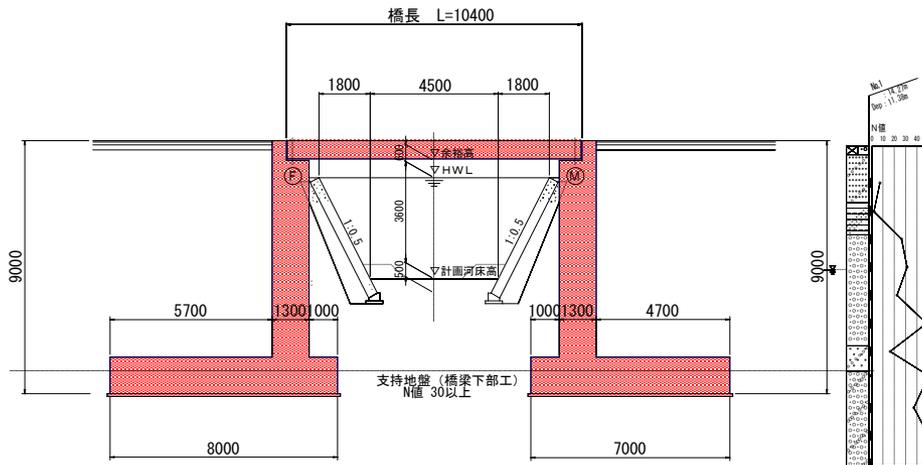


凡 例	
■■■■	整備済区間
■■■■	未整備区間
■■■■	河川

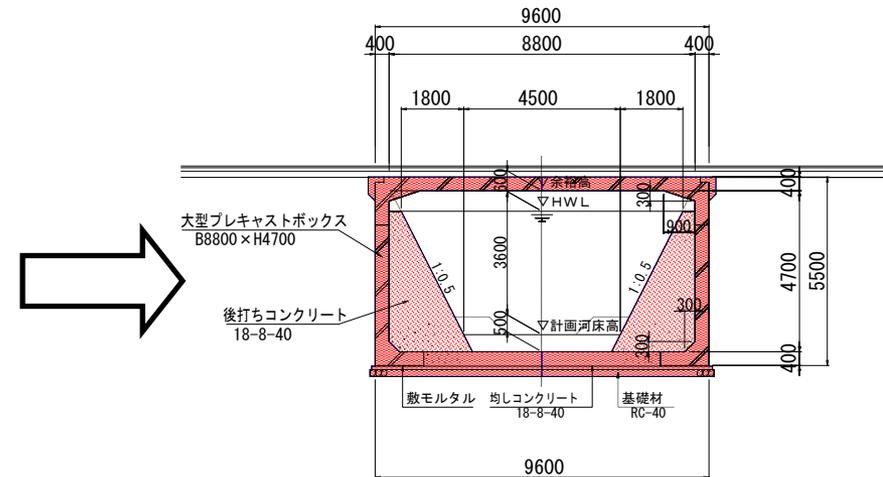
コスト削減の取り組み

■ 橋梁をボックスカルバートに変更し、工事費のコスト削減を図る。

橋梁形式



ボックスカルバート形式



工事費

13,800万円 (1.00)



9,000万円 (0.65)

コスト削減額 4,800万円

環境への配慮

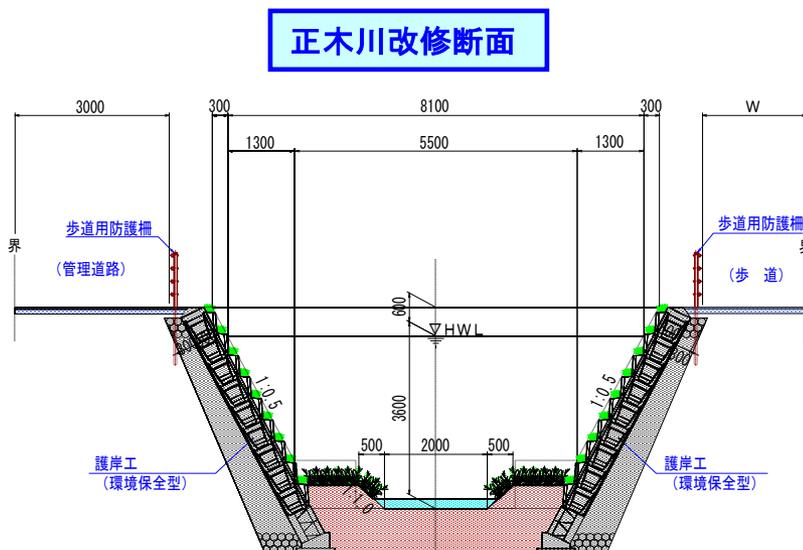
■ 自然環境や水生生物に配慮しながら、河川改修を実施しています。

水生生物の
生息環境の創出

みお筋の確保：平常時の水深を確保し水生生物に配慮する

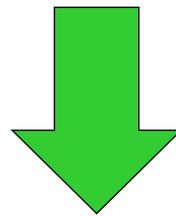
植生緑化による
景観性の向上

緑化製品の活用：植生を育成させるための基盤を確保する



対応方針(案)

- 正木川の河川事業は、岐阜市正木地区ほか流域内の氾濫被害の防止に大きく寄与する。
- 地元住民から早期完成・事業促進の強い要望がある。



事業を継続する